

Q & A 認知症の症状編



監修：
東京都健康長寿
医療センター精神科
ふるた こう
古田 光先生

『ゆをみ』Vol.48とVol.49のレターシートでは、認知症に関するご質問をたくさんお寄せいただき、ありがとうございます。特に多く寄せられたご質問に関して、古田先生にお答えいただきました。

Q なぜ同じことを言ったり、聞いたり、同じ行為を繰り返したりするのですか？

A 認知症による物忘れのため、自分が言ったこと、聞いたこと、やったことを忘れてしまうからです。本人にしてみても、同じことを繰り返しているつもりはなく、毎回初めてのもようです。そのため「さっきも言ったでしょ」などと言われると、混乱したり、傷ついたりしてしまいます。また、軽い物忘れがある場合、不安から確認を繰り返す人もいます。

Q 認知症でも記憶がよい日、すぐに忘れる日があるのはなぜですか？

A 物忘れがあるからといって全て一様に忘れるとは限りません。また、誰にでも調子のよい日、悪い日があります。特に差が激しい場合はレビー小体型認知症や、意識障害が起こって頭が混乱した状態であるせん妄を疑います。すぐに忘れてしまうことがあっても、驚いたり、責めたりせず、本人を傷つけない配慮が大切です。

Q 認知症になると顔つきが変わったり、暴力的になったりするのなぜですか？

A レビー小体型認知症などのパーキンソン症状が見られる認知症では、表情の変化が乏しくなることがあります。また、脳の機能が低下すると、ぼーっとした表情を浮かべることが多くなります。認知症で暴力的になる人は決して多くありません。イライラも、周りから不当に責められたり、能力の低下した自分に傷ついたりして出ることが多いです。

Q 認知症の症状が改善することはあるのでしょうか。

A 抗認知症薬の効果で、症状が改善することがあります。また、家族など周囲の対応の仕方が上手になって患者さんがイライラしなくなったり、デイサービスなどでよい刺激を受けていきいきしたり、介護のサポート体制が整って本人がスムーズに生活していけるようになったりなど、様々な理由で認知症の症状の改善があり得ます。



Q & A 認知症の人への対応編

Q 認知症の人に どう接してよいか 分かりません。

A 認知症は周囲の環境や接し方により、症状がよくも悪くもなります。物忘れや失敗をあげつらったり、正しいことを押しつけたりせず、本人に合わせる事が大切です。びっくりさせたり、怖がらせたりするようなことはせず、優しく接してください。「認知症サポートー養成講座」では、認知症の人への対応心得として、3つの「ない」を挙げています。

- ・驚かせない
- ・急がせない
- ・自尊心を傷つけない

とは言え、こういったことを心に留め置いて、認知症の家族の対応をしていてイライラしてしまうことがあるでしょう。介護に集中し過ぎず、一緒にいる時間を減らす工夫をして気分転換をするとういことです。子育ての経験があると、教えれば理解し学んでいくという期待をしてしまいがちですが、その期待はしないように。



Q 海外では日本との違い はありますか？

A 診断がつくと専門の相談員が初期に集中的に関わってくれたり、同居の家族がいても介護はケアワーカーが行ったりという国があります。家族は認知症の患者さんとのよき生活を楽しむことが役目というわけです。そのまま日本に当てはめられないでしょうが、デイサービスや訪問介護などの介護保険サービスを積極的に活用して、介護をする側も心身共に健全な生活を送れるようにしましょう。

Q 介護のことを 相談できる場所ありますか？

A 各自治体に設置されている地域包括支援センターで相談できます。要介護認定を受けていれば、居宅介護支援事業所などにいるケアマネジャー（介護支援専門員）もよき相談相手でしょう。また、全国各地に「家族会」と呼ばれる組織があるので、そこで介護経験者や介護仲間と相談してみるのもよいでしょう。「認知症カフェ」という、認知症の人やその家族の憩いの場も増えてきています。介護は24時間体制。1人で抱え込まず、仲間をつくりましょう。

Q&Aは次号も続きます！

